

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成21年12月3日(2009.12.3)

【公表番号】特表2009-513596(P2009-513596A)

【公表日】平成21年4月2日(2009.4.2)

【年通号数】公開・登録公報2009-013

【出願番号】特願2008-537052(P2008-537052)

【国際特許分類】

A 6 1 K	8/25	(2006.01)
C 0 9 B	67/02	(2006.01)
C 0 9 B	67/20	(2006.01)
C 0 9 B	6/00	(2006.01)
C 0 9 B	57/10	(2006.01)
C 0 9 B	43/40	(2006.01)
D 0 6 P	1/08	(2006.01)
D 0 6 P	1/24	(2006.01)
D 0 6 P	1/32	(2006.01)
D 0 6 P	1/42	(2006.01)
D 0 6 P	3/04	(2006.01)
D 0 6 P	3/08	(2006.01)
D 0 6 P	3/24	(2006.01)
A 6 1 Q	5/10	(2006.01)
A 6 1 K	8/26	(2006.01)
C 0 7 C	221/00	(2006.01)

【F I】

A 6 1 K	8/25	
C 0 9 B	67/02	D
C 0 9 B	67/20	E
C 0 9 B	67/20	A
C 0 9 B	6/00	
C 0 9 B	57/10	
C 0 9 B	43/40	
D 0 6 P	1/08	
D 0 6 P	1/24	
D 0 6 P	1/32	
D 0 6 P	1/42	A
D 0 6 P	3/04	B
D 0 6 P	3/08	
D 0 6 P	3/24	A
D 0 6 P	3/24	B
A 6 1 Q	5/10	
A 6 1 K	8/26	
C 0 7 C	221/00	

【手続補正書】

【提出日】平成21年10月14日(2009.10.14)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

橋員を介して結合された有機発色団を表面上に含む少なくとも1種の官能化された粒子で纖維を処理することを含むケラチン含有纖維の染色方法であって、ここで

該粒子は、 $\text{SiO}_2$ 、 $\text{Al}_2\text{O}_3$ 又はそれらの混合物に基づき、かつ

該官能化された粒子は、正電荷を有するところの方法。

【請求項2】

前記ケラチン含有纖維が、請求項1で定義した官能化された粒子の少なくとも1種及び酸化剤及び所望により、更なる直接染料で処理されるところの、請求項1に記載の方法。

【請求項3】

表面上で酸素原子に共有結合している、式(1')

【化1】



で表わされる基を含む官能化された粒子であって、

ここで、該粒子は、 $\text{SiO}_2$ 、 $\text{Al}_2\text{O}_3$ 又はそれらの混合物に基づき、

該官能化された粒子は、正電荷を有し、

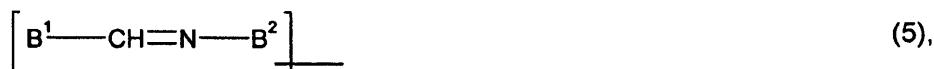
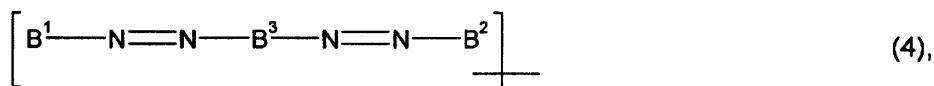
$\text{R}_1$ 及び $\text{R}_2$ は、各々互いに独立して、水素原子；粒子表面-O-又は置換基を表わし、

$\text{B}$ は、直接結合又は橋員を表わし、

$n$ は、1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、11又は12を表わし、及び、

$\text{D}$ は、式

【化2】

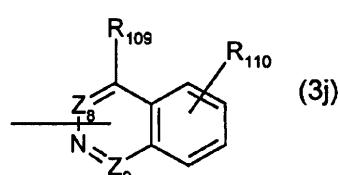
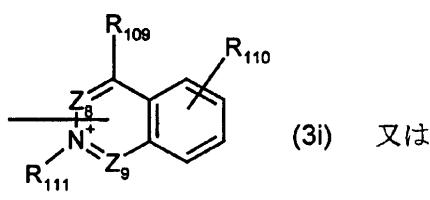
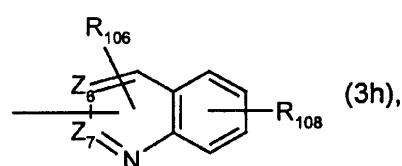
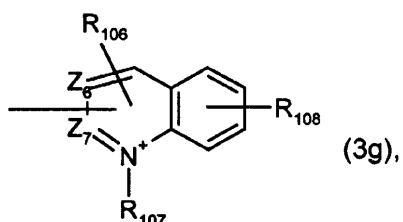
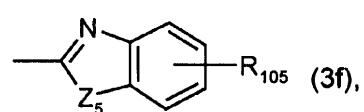
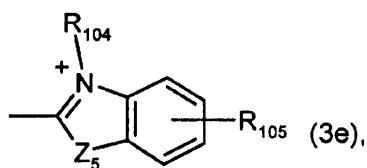
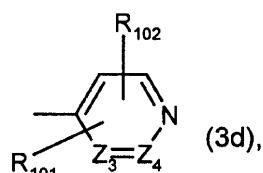
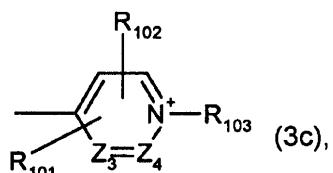
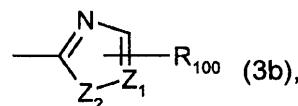
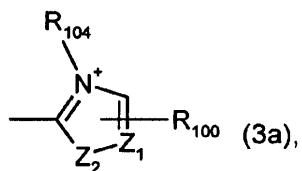


で表わされる基を表わし、

$\text{B}^3$ は、未置換の又は置換されたフェニレン基又はナフチレン基を表わし、及び、

$B^1$  及び  $B^2$  は、各々互いに独立して、所望により置換されたフェニル基、ナフチル基又は式

【化 3】



で表わされる複素環基を表わし、

$Z_2$  及び  $Z_5$  は、-O-；-S-；又は基  $N R_{112}$  を表わし、

$Z_1$ 、 $Z_3$ 、 $Z_4$ 、 $Z_6$ 、 $Z_7$ 、 $Z_8$  及び  $Z_9$  は、各々互いに独立して、N 又は基  $C R_{113}$  を表わし；

$R_{100}$ 、 $R_{101}$ 、 $R_{102}$ 、 $R_{105}$ 、 $R_{106}$ 、 $R_{107}$ 、 $R_{109}$ 、 $R_{110}$  及び  $R_{113}$  は、各々互いに独立して、水素原子；ハロゲン原子；ヒドロキシ基；未置換の又は置換された炭素原子数1ないし12のアルキル基；未置換の又は置換されたフェニル基；ニトリル基；炭素原子数2ないし4のアルカノイルアミノ基；カルバモイル基；ウレイド基；スルホニルアミノ基；炭素原子数1ないし12のアルキルチオ基；又は、式- $N(R_{114})R_{115}$ 、- $N(R_{114})R_{115}R_{116}$  又は- $OR_{114}$  で表わされる基を表わし；

$R_{103}$ 、 $R_{104}$ 、 $R_{107}$ 、 $R_{111}$  及び  $R_{112}$  は、各々互いに独立して、水素原子；未置換の又は置換された炭素原子数1ないし12のアルキル基；又は、未置換の又は置換されたフェニル基を表わし；及び、

$R_{114}$ 、 $R_{115}$ 及び $R_{116}$ は、各々互いに独立して、水素原子；未置換の又は置換された炭素原子数1ないし12のアルキル基；又は、未置換の又は置換されたトリアジニル基又はフェニル基を表わすところの官能化された粒子。